

質問回答

2016年5月30日

「案件名:パヌアツ国エファテ島環状道路テオウマ橋災害修復情報収集・確認調査」

(公示日:2016年5月18日/公示番号:160279)について、業務指示書に関する質問と回答は以下のとおりです。

通番号	当該頁項目	質問	回答
1	P12(4)水理水文解析 河道氾濫解析、確率別安全度評価、河道設計流速の検討	水理水文解析における河道形状は現況河道を用いるのでしょうか。もしくは本解析に河道計画検討・治水計画検討が含まれるのでしょうか。 また、例えば 1/100 計画規模などの確率別安全度評価を行う場合においても現況河道を用いて解析を行うのでしょうか。もしくは、既往においてオーソライズされた河道計画・治水計画等があるのでしょうか。	現況河道と併せ、これまでの河道変遷状況を踏まえた河川計画検討・治水計画・検討を想定しております。 先方政府による河道計画・治水計画等の有無は未確認ですが、先方政府の計画があれば、それらの計画を踏まえた上で水理水文解析を行い、河川改修計画・橋梁改修計画・道路改修計画を検討頂くことを想定しております。
2	P12(5)河川改修計画	「河道流下能力確保のための流路整正工の検討を行う」としてありますが、流路整正工とは、河道拡幅や河床掘削、高水敷掘削などを含んでおりますでしょうか。	流路整正工には、それら対策を含めて、調査を通じて、検討頂きます。
3	P14(8)環境社会配慮 影響の評価及び代替案(ゼロオプションを含む)の比較検討	代替案は、河川改修計画、橋梁改修計画、道路改修計画とリンクしたものとなっている必要がございますでしょうか。また、その場合の代替案の検討ケース数の目安はどれくらいをお考えでしょうか。	基本的には河川、橋梁、道路の各改修計画が一体となった洪水対策を想定しており、代替案は各改修計画とリンクされたものを想定しておりますが、大降雨時にも安全な通行を可能とする代替案を阻むものではありません。代替案の検討ケース数はコストと併せて3~4ケース程度を想定しています。

4	<p>P17</p> <p><u>5.JICA からの参加団員の構成と現地調査工程(案)</u></p> <p>(1)第二回目現地調査</p> <p><u>8.その他の留意事項</u></p> <p>(2)安全管理</p>	<p>在フィジー日本大使館および JICA フィジー事務所に立寄り協議の必要はありますか。必要があるとすれば調査のどの段階でしょうか。</p> <p>第一回現地調査について調査団だけで、在フィジー日本大使館および JICA フィジー事務所に立寄る必要はありますか。お知らせください。</p>	<p>JICA 団員の参加については検討中ですが、本調査に関する JICA フィジー事務所(在フィジー日本大使館)への情報共有・説明については、フィジーへの立ち寄りではなく、対処方針会議、帰国報告の際など、テレビ会議等により行うことを想定しています。</p>
---	---	---	---

以上